

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフの目につくところに掲示したり、会議などで共有している	『その人らしさをいつまでも』を理念に掲げて、入居後は担当を初めとして、その人らしさの把握や、やりがいを見つけるように関わり、情報を共有している。家庭的な環境の下で日常生活が送れ、今まで関わった場所や趣味も大切に継続を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常の散歩の時や、地域交流会を設けて交流している。	天候に応じるが、毎日のように午前10時から11時は散歩をしている。ご近所の方は、野菜や花を下さったり、近くの商店に行くなど、交流しています。地区公民館が隣にあり、お祭りの稽古を見たり、昨年はふきのとうの10周年記念に地域交流会で手作り作品を売り、豚汁を振舞い好評でした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトを通じて、地域の方々に理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	活動内容や事故・ヒヤリハットの報告をし、助言を頂き業務改善に取り組んでいる。	コロナ禍の中で、昨年来より会議は3回しか開催できず、区長などの欠席もあります。推進会議の提案から、地区公民館との連携、昨年は地域交流会も出来ました。運営推進会議の内容は玄関などに掲示はされていませんでした。	運営推進会議録を誰でも見られるように玄関などに掲示することが望ましい。家族にも情報が行き届く様に、お便りと一緒に送るとともに、職員などにも情報共有する工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	施設の実情、空床状況などを通じて関係を築くようにしている。	運営推進会議に行政担当の福祉課が出席しているが、コロナ禍で会議の開催が出来ずにいます。情報交換や相談は主にメールや電話になっています。諏訪広域連合との交流は少なく、同業者との交流はなかなか出来なくなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修で拘束についてスタッフへ周知している。夜間以外は玄関の施錠は行っていない。安全面で配慮したうえで、できるかぎり自由に生活を行っていただいている。	普通に家での生活を目指す為に、安定剤など不必要と判断する薬はなくケアをしています。検討委員会では、事例(放置・言葉・薬・身体面)を挙げて伝達研修を実施して、その人の気持ちや、意欲に寄り添う介護をする様にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月の会議の中で、不審な点はないか話し合っている。変わったことがあればすぐに報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	まだ行えていないが外部研修に参加する予定。今後必要な場合対応できる体制を作る予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、時間をかけて説明を行い、時間をもって質疑応答に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月のお便りを通じて利用者の様子をお伝えしたり、家族の訪問時や、電話などで思いを聴くように努めている。	毎月、担当の手書きのお便りには、その方の日常のカラー写真を数枚添えて、郵送しています。面会に来られるご家族には、細かな事も、聞いて対応しています。春先のコロナ禍でも感染予防をした上で、日当たりの良い外のベンチで面会がOK、現在も感染予防をした上で、家族の付き添いで外出や、用事を済ませることが出来ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	時々個人面談を設けたり、アンケートを通じてスタッフの気持ちや思いを聴くようにしている。	運営に関する月1回の代表者会議の前には、職員からの匿名アンケートで、辛い事や改善に関する事を聞ける様にしています。この会議はケア会議や研修も兼ねていて、モニターを見ながら全員が参加できます。また職員が働きやすく、やり甲斐がある事で、利用者さんに気持ちよく、優しく出来て、ケアの向上や統一が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月1回の代表者会議にて状況を把握し、早急な対応をしてくれている。賞与や昇給などで反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回の代表者会議にて実際と力量を把握している。早急な対応をしてくれている。外部研修にも協力的に対応してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	介護フェスタ2020やキャラバンメイトフォローアップ研修などで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接にて生活状況、身体状況を把握したり、アセスメントシートを定期的に更新するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前面接にて思いや、不安などを聴き、入居後も、事情によっては、まめに連絡を取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前の相談で、話をしっかりと聴き、事業所ではどのような対応ができるか検討、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できることは補助をしながら、自分で行ってもらう事に努めている。また役割を持っていたき、スタッフと一緒に家事などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時は連絡なしでいつでも来てくださいと伝えてあり、家族との外出も気軽に行けるようにしています。また毎月のお便りにてご本人の状況をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や来訪にて今も交流をもっている方も多し。婦人会にも事業所から参加して通っている方もいる。	本人がこれまで家で社会参加してきた、デイサービスや地区公民館の体操、婦人会の集まりなど、仲が良かった人たちとの交流を大切にしています。電話や来訪などもあり、美容院も行きつけか、訪問美容室か、自由に選択できます。身だしなみを整えることも、その人らしさを支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席変えをしたり、レクを通してスタッフが間に入り、孤立しないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、連絡をくれ、知り合いを紹介していただけることもある。相談にいつでものりますと、終了後に話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の関わりの中で思いや希望を把握するようにしている。希望を行事に取り入れるようにしている。	毎日の関わりの中で『～に行きたい、～を食べたい、～をやりたい』をすぐに、レクの内容に取り入れています。入浴時や、お部屋での午睡の前などもマンツーマンでゆっくり話を聞く、会話に充てています。年1回の県外旅行や、花見・紅葉狩りなど、利用者さんの声を反映しています。その人が出来ること、過ごし方を、自分の家の様に感じられるケアを目指しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に情報を聞いたり、日々の会話から情報を得ている。茶碗やお椀は使用していたものを家から持ってきてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月の会議にて利用者全員の時間をしっかりと、意見交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとに担当スタッフを配置して、意見を出している。家族にはお便りや、電話にて意見を確認している。	会議で、利用者の個人別の対応を詳しく情報共有しています。その人らしさ、普通の家での生活に近づくため、ほとんどの利用者から意見をお聞きしケアプランに反映して、プランの内容も本人に話し、確認のサインも頂いています。したい事、出来ることを大切に、ホールでは参加自由で、何かしらレクリエーションがあるので、入居してから介護度が下がる方もあり、心身の力の発揮を願っています。自室が2階にあり、階段もトレーニングに使えるよう設計してあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ全員が日々の記録を確認し把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望になるべく応じている。デイサービスや訪問診療など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のイベントやお祭りなど積極的に参加している。近く美容院には理解を得ていて、スタッフが見つからない場合もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は基本家族の希望にて医療機関を決めていただいている。緊急対応時はスタッフが提携医療機関に受診している。	往診を受ける方が4人、かかりつけ医などの受診は家族が付き添う。協力医の受診は全体の3割となっています。今の状況を家族が付き添ってよく理解しておられ、施設では薬の管理も3度確認して、誤飲や飲み忘れを防止しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員の配置はないが、訪問診療にて、日々の状態や、異変等、情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族や病院関係者と連絡を取り合い情報共有に努めている。早期退院できるよう、受け入れ準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合は早めに家族と連絡を取り、次の受け入れ先の相談や、提案など一緒にやっている。	入所した時と、重度化した時に、説明を丁寧に行い、医師から今の状況の説明と、今後の方針などを説明する中で、次の受け入れ先の相談、提案も行います。一部の家族から看取りの希望があり、添えるように検討中とのこと。終末期の研修、グリーフケアの研修も、今後に向けて検討されることをお勧めしました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	地域の消防署に依頼し、救急の研修を行ったり、AEDを実際に使い練習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練、通報訓練、消火訓練を定期的に行っている。3日分以上の備蓄品も備えている。	年2回の避難訓練、通報訓練、11月に消火訓練を行うほかに、消防署の救急研修では、AEDも使って実施。消防署立ち合いや、警察の方、地域との連携・協力も図っていききたい。備蓄はキャンプ用品、米・水など、電気が使えなくても良い様に準備しています。	消防署・地区の警察、消防団や地区との協力や連携を期待します。冬季の避難では、防寒対策のアルミシートや、バスタオルと紙おむつを使用した防寒頭巾、毛布などの備蓄も取り入れの検討を願います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日常のケアの中で気になる行動や言動などは毎月のフロアミーティングにて話し合い、共有を図っている。	諏訪広域でのプライバシーに関する研修は、ほとんど出席しています。内部の伝達研修も実施していて、特に個人の尊厳に関わる排泄の自立に寄り添っています。苦情があった場合は、リーダーと相談し対応します。その事柄や解決などは申し送りして、ミーティングで共有しています。何事も自分の家にいる感覚を大切に、家で過ごす方から玄関掃除などもして頂いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事レクや行事など、利用者様の希望に沿う活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	メリハリのある生活を送りたいため基本的な一日の流れはあるが、毎日違うレクなどを取り入れたり、外出したい場所や食べたいものの要望に応えられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝一人ずつの整容を心掛けている。また、外出する際、化粧をする利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に一度は必ずおやつレクや食事レクを行い、準備から食事まで利用者と職員と一緒にやっている。	半調理の給食サービスの食材も使用していますが、～が食べたいなどは、レクレーションに直ぐ取り入れて、一緒に準備・調理・食事と楽しめる様にしています。行事食も、利用者の声や職員のアイデアを生かして、買い出しなどから全員で関わられるようにしています。裏には畑と、季節の食材は戴き物もあり、食事で提供。誕生日のケーキなど手作りしています。茶碗・箸は自分専用を使用しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	外部の給食サービスを利用しており、栄養バランスを考えられた食事を提供している。ごはん量は個々の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員が付き添い一人一人に合わせて口腔ケアを行っている。また就寝前は入れ歯を外し洗浄剤に浸けて清潔保持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	おむつは使わず、昼夜を通し基本トイレ誘導を行い、自立支援を行っている。	個人の尊厳と日常生活の質に排泄は深く関わるため、オムツは使用せずにパッドのみ。布パン2人。排泄パターンに寄り添い、自発的な意思でのトイレ介助で、夜間は、リハパンも使用者がいるが、ポータブルトイレは1名のみ使用です。夜間もトイレ誘導での介助で、自立ケアを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の定期的な散歩・運動などを心掛けている。また、ヤクルトを毎日摂取し、腸内環境を整えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	目安として入浴日を定めているが、要望に応じて変更し、スタッフと利用者1:1の対応を心掛けている。	その日の気分を大切に、午前・午後への入れ替えなど、声掛けと、入浴剤などで工夫しています。清潔を保つため週2～3回は入浴、職員とマンツーマンでゆったりと会話できる時間にしていきます。諏訪湖ハイツで足湯、温泉に行くこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、メリハリのある一日の流れを心掛け、疲れすぎないように30分程度の午睡を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の処方箋を個人ファイルに保存し、いつでも閲覧できるようにしている。体調を把握しながら医師に相談し、薬の変更をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除、畑、花壇の水やり、洗濯など、利用者様それぞれに役割を持っていただき、気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	普段の会話の中で希望を把握し、外出するよう努めている。	天候を見て、ほとんどの日は近所への散歩ができる様になっています。レクでの食材の買い出し、夏祭り、文化祭、そば祭り、フリーマーケット、外食、花見・紅葉狩りなど、白樺湖・諏訪湖にも出掛けています。遠くは柵池や県外への、家族と一緒にバス旅行など、車いすにも対応できています。今年はコロナ禍で縮小、自粛もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に事務所で預かっているが、希望される利用者様には手元にお財布を持っていたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様宛の電話は場所に配慮し取り次いでいる。手紙はやりとりをされている利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設らしさを消し、自宅にいるような安心感のある空間を作り出すよう努力している。	共有空間は窓が広く明るく、室内のテーブル・椅子はゆったり配置されて、外の草花が眺められます。玄関に接するドアも開放自由になっていて、フロアーにはソファもあり、金魚鉢の金魚が和みます。共有空間は、自宅にいる様な自由な雰囲気があり、利用者さんの顔が和やか・穏やかです。転倒防止など、職員の死角が無い様に配慮されています。利用者同士の調整は、均等に気を配りながら、手伝ってくれる方の気持ちを大事に過ごせる場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ホールやリビングの空きスペースにソファやいすを置き、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人のなじみのあるものや大切なものを持ち込んでもらい、本人好みの部屋にしている。ご家族とご本人で部屋を飾り付けられている方もいる。	居室は8畳ほどあり広く、窓があつて戸外が見えます。収納スペースもしっかりと取っています。家具の持ち込みは、収まるなら何でもOK、家族と本人のレイアウトに任せてあります。各室とも、入居者の暮らし易さや、個性が現われる室内になっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人の力を生かせるよう、いろいろな場所に手すりを配置している。歩行時はスタッフが寄り添うよう心掛けている。		